学園長だより 第10回

校訓 明朗快活

愛知淑徳学園理事長・学園長 小林素文

卒業證書
愛知縣
河合志づ子
右者本校修業年限五箇年ノ課程ヲ
卒業セリ仍テ之ヲ證ス
昭和七年三月二十四日
愛知淑徳高等女學校長小林清作

高女時代の河合志づ子さん(左)と
卒業証書（上）

3・11から3年たち、未だに復興途上にある中、悲しみを抱きつつも、自ら立ち上がろうとしている健気な被災者の姿が報道されるたび、逆に励まされると共に「天は自ら助くる者を助く」とならんことを祈っていました。

＊

3月は卒業式のシーズンです。毎年、どのような祝辞を送ろうか思い悩みますが、今年は「天は自ら助くる者を助く」をテーマにしようと、作者のサミュエル・スマイルズを調べてみました。

スマイルズは19世紀の貴族社会の英国で、庶民の出ながら自らの決意と覚悟で名声を勝ち得た、立志伝中の人物であることがわかり、彼の生き方とそれに根差した名言を卒業式で紹介しました。

・天は自ら助くる者を助く
・1000の憧れより、たった一つの挑戦の方が価値がある。

＊

祝辞では触れませんでしたが、スマイルズは「快活さは心に順応性（elasticity）を与える」とし、快活さにより、困難を苦しみではなく、希望へ繋がる試練と捕えることができると述べています。

「快活であれば明るく朗らかな心でいられ、困難を克服する力となる」これは、明治38年の愛知淑徳創立時に「剛健質実」「謙譲優雅」と共に掲げられた校訓「明朗快活」そのものです。

＊

本年度は愛知淑徳創立一一〇年目となります。学園の長い歴史の中で、淑徳4代も育っています。

河合志づ子さん（上記写真）は、愛知淑徳高等女学校に5年間在籍し昭和7年に卒業されました（創立者小林清作先生が校長でした）。

その娘となる三倉良子さんは、中学・高校6年間淑徳で学び昭和29年に卒業されました（良子さんの担任は小林素三郎前理事長です）。

孫にあたる多賀谷ゆかほさんは、中学・高校・大学と10年間の淑徳育ちで昭和58年に大学を卒業されました（ゆかほさんは大学の英文学科で私の授業を受けていました）。

曾孫の多賀谷真衣さんも、お母さんと同じく中学・高校・大学と10年間淑徳で学び、このたび目出度く卒業となりました。

淑徳4代で合計31年間、愛知淑徳で生徒・学生時代を送られたわけです。世代により、時代が異なり、校舎が異なっていても、どの世代も校長先生から何度となく淑徳魂を聞かされ、友と泣いたり笑ったりの青春を謳歌されていたことでしょう。

＊

卒業式は毎年繰り返されるお馴染の風景ですが、年々に感動を覚えるのは、毎年咲く桜に心打たれるのと同じなのでしょう。

高等学校271人、大学2274人の卒業生が、明朗快活に、自らの力で、希望に向かって旅立っていかれることを心より祈りたいと存じます。そして、側面から学園を支え続けて下さる9万人を超える同窓生に心よりの感謝を申し上げるとともに、様々の世代の元淑徳生が明朗快活な人生を送っておられることを願って止みません。